

第48回日本のうたごえ全国協議会総会

方針

はじめに

地球は太陽系第三惑星として46億年の時空を旅してきた。この地球上で命を引き継ぎながら幾多の進化を遂げ500万年前に人類は出現した。5000年前に国家が出現し、文明が興るが同時に戦争も生まれた。武力が自分たちの平和と安全を保障するものと信じられるようになり、文明が世界を制覇していくことになった。文明を発達させた人類は、地球と環境を守ることもできるが破壊することもできる。戦争は戦争をよび、日本はあのアジア太平洋戦争によって2千数百万人のアジアの人々を殺し、310万人もの日本人も犠牲となった。同時に、地球をも破壊しかねない核軍拡を導くことになる。その最初の原爆が、広島と長崎に落とされた。本年は、その被爆・戦後から70年の節目を迎える。

国民の誰もが不戦・非核の誓いを新たにすることに、被爆国の政府として「核兵器のない世界」実現の先頭に立つことが求められるはずの日本の首相が先の侵略戦争を美化・正当化し、外相や軍縮大使の口からも核兵器使用を容認する発言が飛び出す等「戦争する国」づくりに向けた異常な動きが出ている。一方、昨年12月に開かれた「核兵器の人道的影響に関するウィーン会議」では国連加盟国の8割を超える158カ国が参加した。核保有国は参加を拒んできたが、強まる世論の中で米国とイギリスが参加を余儀なくされた。潘基文国連事務総長が昨年の原

水爆禁止世界大会へのメッセージで「被爆者の尽力のおかげで核兵器の壊滅的な人道的影響が理解された」と述べたように、長年の被爆者の訴えが国際政治を動かす流れへと発展している前進面も出てきている。

その被爆者も平均年齢は80歳に達した。4月末から国連本部で5年ごとの核不拡散条約(NPT)再検討会議が開かれる。何としても今年を「核兵器のない世界」への大きな転機としていきたい。被爆国日本の非核・平和運動を盛り上げるためにも私たちは平和の力を音楽でつくり広げる「うたごえ」の真価を全国津々浦々で発揮し、日本の矜持を守り抜く決意でこの一年をのぞみたい。

本年は、阪神・淡路大震災から20年、東日本大震災から4年を迎える。

阪神・淡路大震災の災害復興住宅では、病死のほか長引く仮設暮らしや失業などが被災者の負担となり、自殺も相次いだ。1人暮らしの入居者が誰にもみとられずに亡くなった「孤独死」者数はこの20年間で1097人に上っている。東日本被災地では、いまだに避難生活を送っている人が約26万人いる中で、仮設住宅での生活を余儀なくされている被災者が10万人を超え住まいの復興は遅れている。一日も早い震災からの復旧・復興、原発ゼロをめざすとりくみが引き続き全国で求められている。

昨年は、名護市長選の勝利に始まり、沖縄県知事選、総選挙で「辺野古新基地反対」の審判を下した。これは沖縄県民の怒りの声が「オール沖縄」に結集された結果であり、この教訓を受け、核も基地もない平和な日本実現のため、幅広い層と握手することのできる「オール日本」という日本列島「島ぐるみ共闘」づくりにつながる運動を構築することが現下の急務といえる。

昨年4月に強行された消費税8%引き上げで、年間8兆円を超す国民負担を強いる一方で、政府は法人税2.5%超引き下げ方針を固め、15年度予算案に軍事費は過去最大の約4兆9800億円を盛り込み、安倍政権発足以来、3年連続で前年度を上回る軍拡路線を打ち出した。ま

さに、国民に増税と社会保障の削減を強要し、その財源を軍事費に充てる形となっている。さらに、円安による物価上昇により実質賃金が17カ月連続で低下、非正規雇用労働者数初の2000万人超え、原材料価格の高騰で中小企業の「円安倒産」も急増している中で、安倍首相は消費税10%増税を17年4月に実施すると断言した。

戦後70年の節目である今年には、憲法をまもり、米軍基地撤去、集団的自衛権行使を許さない、秘密保護法施行に対する廃止世論を盛り上げ、稼働原発ゼロ一年・再稼働阻止へ、国民生活破壊の安倍暴走政治にストップをかけるための国民的共同をさらに広げ、強めていくことが重要となっている。また、安倍政権の「戦争する国づくり」は、「愛国心」を植え付ける道徳教育の強化や表現・結社の自由の制限による反戦活動の抑圧など教育・文化への攻撃も強まっている。

このような中であってメディアの果たす役割は看過できないものがある。「改憲を躊躇せずに決断」することをあおったり、けしかけたりするメディアもあれば「国民の側に立ち権力を監視する義務」を貫くメディアもある。過去の戦争とどう向き合い、未来にどうのぞもうとするのか、歴史の教訓をどう踏まえるのかが問われている。音楽にかかわる点でも「メディアの批評機能が著しく低下・弱体化しているため、音楽そのものについて真正面からの議論がほとんどなされない状況になっている。

これは『音楽芸術』誌の廃刊（1998年）頃から始まり、雑誌メディアでは音楽批評専門月刊誌は皆無（同人誌的雑誌を除く）であり、全国紙に掲載される音楽会評は週1回、1〜2の音楽会を取り上げる程度にとどまっている」（小村公次氏談）。この点で「うたごえ新聞」が「いま伝えなければならぬことと言わねばならぬことを週刊で報道・論評し続けている責務と役割」をあらためて強調したい。

今年4月から一年かけて全国展開する創刊60周年記念「うたごえ新聞まつり」の成否は、今後の運動の発展を大きく左右する取り組みとして捉えたい。昨年11月に開催された「2014日本のうたごえ祭典inみやぎ」にはのべ13400人が集い、復興を希う音楽会では被災地からの「感謝」と全国からの「連帯」をうたい上げ、大きな成功をおさ

めることができた。

うたごえ運動は一貫して、人の世の嘆きや哀しみ、喜びを歌を通じて人間の真実を描き出し、人間の尊厳と人生の誇りを歌ってきた「歌う日本国憲法請負人」。憲法と共にたゆまず歩み続けてきたうたごえ運動に夢と確信をもち、「戦争か平和か」の重要な岐路となる今年を2018年運動70周年へと向かう新たな前進の峰を築く一年に。そして、演奏創造、創作の大普及活動と加盟団体・会員の拡大、うたごえ新聞読者拡大の大組織建設活動の前進を成し遂げる一大飛躍の年にしようではありませんか。

なお、今総会では一年間のまとめ、今年の運動方針、決算報告と予算等の議案について論議することを主な任務とするが、あわせて1975年2月23日に実施され、これまで3回にわたり一部改正された全国協議会規約について、40年を経た今日、現行体制や活動内容が規約に謳われていない不備な点が散見されるため今年一年の討議を経て次年度総会で規約改正の提案を行うことを附議したい。

2014年度 活動のまとめ

2014年度活動方針にそって、以下、活動のまとめ

1 うたごえを創り広げる活動

①震災復興・原発ゼロめざすうたごえ

被災から3周年を迎えても、なかなか進まない復興への道のり。福島では、原発事故の被害が目を追って深刻になる現実に、全国で震災復興・原発ゼロのうたごえが響いた。

11月に東北・宮城で開催した日本のうたごえ祭典 in みやぎ・復興を希う音楽会を頂点に、全国各地で、また、各地から震災復興・原発ゼロをめざすコンサート、うたごえ会、被災地訪問などが多彩に展開された。

日本のうたごえ祭典では、山元町の「この町で」、東松島の「みやぎ名物アイウエおんど」など開催地での創作が運動をけん引した。また、福島で生まれた「福島の海よ」なども地元発信の思いを伝えた。東北連帯の「希望のうた」、全国連帯の「希い」も復興の希いをこめた演奏となった。

祭典に向けては、大阪でみやぎ祭典連帯コンサートが開催されたのをはじめ、電通祭典が宮城で開催など、全国からプレ企画含めて思いを寄せるとりくみが展開された。

レガータが呼びかけて4月に福島で「響 ai コンサート」が地元の合唱団との共演で行われた。埼玉合唱団は県内に避難していた双葉町の人たちとのうたごえ会を加須ふれあいセンターで再開。引き続きの支援を続けている。

「3・9原発ゼロ全国大統一行動」では、自治体として市長が国と電源開発を相手取り原発差し止め訴訟を起こした函館で運動を広げようと作られた「空を 海を いのちを」を歌って大間原発NO！を歌い、東京・日比谷野外音楽堂の集会では「民衆の歌」これが自由というものか」などを歌い、また、日比谷公園のサブステージでは福島のいわき雑魚塾らが「でれすけ原発」を歌った。

②「うたごえも、うたごえも、うたごえを」を合言葉に、歌う喜びをひろげる活動

東播センター合唱団は東播地域8市3町すべてでうたごえ会を行った。気軽に参加して歌う喜びを共有できるうたごえ喫茶の活動も、静岡のうたごえ仲間TOMOなど数百人の大規模で開催するなど広がっている。前年の日本のうたごえ祭典開催地大阪では祭典のつながりを大切に、医療・介護のうたごえを！と歌う会をとりくみ、みやぎ祭典の合同へとつ

ないだ。シニア世代を中心に歌いに行くことで元気を取り戻し、やるたびに参加者の輪が広がり、そこから、うたごえ新聞の読者、合唱団入団へとつながるきっかけともなっている。

「戦争する国」への道を許さないと、集団的自衛権行使反対のうたごえが各地で起こり、容認の閣議決定に、会長名で抗議声明を出すなど情勢に対してうたごえとして態度を鮮明にしてきた。辺野古米軍新基地工事強行に対して、8・23辺野古抗議大集会、知事選挙直前の10月末の2次にわたり代表を派遣。オール沖縄で座り込みを続けるキャンペーン・ゲート前で現地の仲間と「沖縄を返せ」他を歌い闘いを励ました。

3・2ビキニデー、メーデー、憲法集会、母親大会、原水爆禁止国民平和大行進など、各種の運動の中でうたごえを響かせた。原水爆禁止世界大会では数年ぶりに文化の夕べが青年の集いと共催された。日本のうたごえ祭典開催地宮城ではソニー労組の祭典「はたらく仲間たちの希い」ステージ参加など闘いと結んだうたごえが広まった。母親大会でのうたごえ分科会は今年も各地で取り組まれた。

③多くの人が「こぞって歌える」愛唱歌を創りだす

日本のうたごえ祭典・復興を希う音楽会第1部では東北から今発信したい思いを創作し、成功の力となった。震災以後、歌を創り、日々様々な思いを歌う活動が東北で精力的に展開されてきた結果であった。

2014創作講習会は、福島と愛知の東西2カ所で開催。

福島では、「フクシマの現状をどう歌にするか」をテーマに、南相馬でのオプショナルツアーにより原発事故を肌で感じ、「つぶてソング」の詩人・和合亮一さんの講座から創作者の思いを学び、音楽評論家・小村公次さんには批評活動の大切さ、そのキャッチボールの必要性、叙事と叙情をどう意識してつくっていくのかなどアドバイスをいただき、その後の実作に大いに影響を与えた。愛知では、詩人・石黒真知子さんと作曲家・木下そんきさんから実作でも数々の率直な指摘をいただいた。

オリジナルコンサートは、東北の被災地からの発信、また被災地に心

寄せる歌づくり、新しい着想と若い感覚の歌、創作講習会や各県・産別の創作運動を反映した参加、つくり続けている人たちの新たな挑戦、力作など多くの前進があった。コンサートのあり方についての検討が求められている。

北海道など県協議会で創作合宿を継続し、洛北青年合唱団など団での創作合宿を行った。

2 合唱発表会運動、地域・分野のうたごえ祭典

①県、産別、全国の合唱発表会のとりくみ

34都道府県、8産別、1階層で合唱発表会が行われ、1523団体が参加した。祭典参加運動と連動させてとりくんだ山形で倍加、日本のうたごえ祭典開催地宮城でも新しい参加を迎えた。群馬では数年ぶりに教育祭典とあわせて開催。石川は日本のうたごえ祭典開催を展望して倍加。運動創立70周年祭典を見通した活動を展開する東京で3割増、日本のおうたごえ祭典開催からさらに発展させた大阪で2割増の広がりを見た。合唱発表会にとどまらず祭典としての豊かなとりくみを進めたところで広がっている。年に1回の地域の発表会を楽しみに、実行委員会参加団体が新しいサークルを誘ってくるなどの経験も生まれている。

全国の発表会には、293団体が参加。(交流の部)を2会場並行開催として枠を広げたが、推薦、準推薦の扱いを厳格にしたことにより若干参加数が押さえられた。多団体出場者への対応、申込書類の提出期限の厳守、運営、実務面でのさらなる改善などの必要性も見えた。

②地方祭典、産別祭典など

県祭典は4県、ブロック祭典は1ブロック、産別祭典は8産別で開催。

私鉄のうたごえは愛知の地域祭典と、国鉄は広島、教育は群馬など、地域と産別の合同で祭典が開催された。電通は日本のうたごえ祭典開催地宮城でプレ企画と位置付け開催した。新会員獲得に腐心する職場のう

たごえだが、港湾祭典の開催が途絶えたことは残念。

地元の中学生や少年少女合唱団など子どもたちと歌った北海道祭典。九州でも地元高校生らと共に被爆70周年へ九州のうたごえが委嘱した「翼の伝承ナガサキから」を歌った。兵庫のうたごえ祭典も県内持ち回りの東播地域で開催。開催地での運動を広げる力になっている。

③日本のうたごえ祭典 in みやぎ

被災地の復興を希って開催した日本のうたごえ祭典 in みやぎは、復興を希う音楽会に5400人、大うたう会1300人、被災地視察ツアー・仮設住宅うたう会あわせて1060人、合唱発表会・オリジナルコンサートにのべ5700人、あわせて13400人を超える参加で成功した。

「被災地の復興を願って 今伝えたいこと そして『感謝と連帯』」をテーマに、「被災地からの発信」は地元山元町の「この町で」、東松島・石巻の「ぜってえまげね合唱団」、「ふくしまに生きる」のステージと参加者の感動を呼び、池辺晋一郎指揮で歌う全国合同合唱団、クミコと歌う全国女声合同合唱団ではうたごえ外の参加も広げた。東北の連帯、全国からの連帯の力も大きく広がり、復興を希う音楽会は1カ月前に満員札止めという広がりを見た。

祭典で示された全国連帯の力を被爆・戦後70年からうたごえ70周年への運動づくりに生かしていくことが求められている。

3 青年サークルづくりを積極的にすすめる、青年の要求と結び合い、多くの青年を迎える活動

①サークル・合唱団で青年を迎えるとりくみ

京都・洛北青年合唱団など教室生制度を継続して取り組む中で、青年層の団員を広げている合唱団もあるが、一方で研究生に若者を集める事

に成功しながら、修了後の入団に結び付ける事ができなかった経験も報告されており、成果と教訓を学びあうことが求められる。

東京・調布狛江合唱団は合唱団の中に青年部を設け、大阪・ブルースカイのように青年サークルとして独立させるなど、青年の塊をつくる事で活動が活発になる事を証明しており、全国の取り組みでも参考にしたい。東京と大阪では協議会として青年学生部を立ち上げて位置づけを強めているほか、青年が協議会役員に加わる例も増えており、協議会として青年対策に取り組む意識と体制が少しずつ強化されている。

一人が一人を誘い、運営財政も含めた応援団まで組織しながら青年サークル

”Green love Cantabile”を始動させた愛媛、全国青年のうたごえ交流会 in 福島へ例年の倍以上の参加組織を成功させ、また福島での経験が刺激となり若手女声コーラス *Peace* を結成した長野の活躍は全国を励ましている。

継続した独自のミニコンサート、うたごえ喫茶の活動が光る福井”おでん部”、みやぎ祭典の運営でも力を発揮しながら地域での演奏を数多く取り組んできた宮城”若星Z☆”、県の青年学生連絡会を主体として、独自の青年分野での合唱発表会を開催している京都など、それぞれにアプローチを行い、青年層を広げるための行動を起こしている。

サークル・合唱団同士の情報交換をさらに密にし、青年層をいかに増やしていくかを日常的に議論しながら、連携して取り組む機会を多くつくっていくことが大切である。そして、青年空白地域のブロックにも組織の幅を広げ、さらなる青年層を開拓して行くことが求められている。

② 団体・分野をこえた青年ネットワークをつくり、サークルづくりにつなげるとりくみ

3・1ビキニデーの前日の青年集会、Ring! Link! Zero
2014 in 静岡 「はじめよう！核兵器廃絶アクション」1年後のNPTに向けて」のフィナーレで「僕をつくる道」「民衆の歌が聞こえるか」を青年のうたごえで取り組んだ。また、ビキニデーの墓参行進、

集会フィナーレでも青年が中心となつてうたごえを響かせた。8月の原水爆禁止世界大会の「Ring! Link! Zero 青年と文化の夕べ」でも「折り鶴」「戦争はもういやだ」の歌唱指導をし、全大会で歌い交わすことに結びついた。それぞれの運営に関しても責任者や実行委員、当日のスタッフなど積極的に参加した。

大阪では、地域の民主商工会の青年とつながり交流を深め、合同でのうたごえ会も取り組んだ。また、青年革新懇のなかで例会のたびにうたごえを行っている。京都も青年革新懇や青学連などと共同の取り組みができ、新たに文化団体連絡協議会ともネットワークが広がりがつつある。

③ 青年のうたごえ祭典から日本のうたごえ祭典へつなげるとりくみ

”全国青年のうたごえ交流会 in 福島”には70人が参加し、祭典青年合同曲のレッスンをし、日本のうたごえ祭典 in みやぎへのステップとした。南相馬市へのバスツアーなども取り組んだ。この取り組みを通じて、宮城だけでなく新しく山形の青年とのつながりができた。

みやぎ祭典の”保育の仲間と青年・学生合同ステージ”に向けては、現地からの青年ニュース「わけ記者」での音楽づくりを参考にし、全国各地で練習会を行った。奈良で行われた全国保育のうたごえ交流会のなかで合同の練習会が行われた。

当日のステージは現地・全国含め113人の青年と保育の仲間約200人で歌うことができた。初めて歌い手で参加する青年も多く、地域的にも北海道や山形の青年が新たにステージに立った。

4 学習・教育活動をすすめる、次代を担うリーダーを計画的に育てる活動

① サークル・合唱団・県協議会での日常の教育活動

北海道では、「磨いて、磨いて90歳まで歌えますよ！」と合唱・指揮

講習会が全道各地から140人の参加で行われた。特徴としては、北海道祭典開催地での講習会、地元で活躍の指揮者の指導、全国、道祭典中の曲をとり上げる、自分の団に戻って練習しやすいようにパートバランス良く参加等があげられる。うたごえ運動の素晴らしさをどれだけ伸ばしていくかが課題。一人ひとりがしつかり考え、どう歌うか、またそれを歌わせる指揮者の役割が学びあえた。

京都では、つくり学ぶ部会として、外部講師を呼んでの合唱講座、内部講師による地域講習会、また「めだかの学校」と名付けて指揮の勉強会が行われ、京都のうたごえ65周年シリーズ音楽会やみやぎ祭典（交流の部）に出場した「Nichitaの風合唱団」の指揮者、また合同練習会で指導を担当する人も生まれている。

大阪では指揮研究会、関西合唱団日曜講座等が継続されている。

うたごえ運動の音楽的蓄積を学び、生きた財産として継承していく場として新たに合唱研究会が生まれた。現在、会員は関西地域在住者を中心に2府4県から36人、月1回の例会を持ち、うたごえ運動が生み出した作品を系統的な音楽作りの中で学んでいる。

指揮者が互いに日常の指導実践を交流し合い率直に学び合い、他の実践を紹介し合うことも有効ではないかという問題提起もある。指揮者・指導者ネットワーク等の構築も模索していく必要がある。

②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」を活用し、次代を担うリーダーづくりをすすめる

うたごえ運動の創造理念、何を、誰に向かって、どう歌うかなど、合唱発表会講評や季刊「日本のうたごえ」、うたごえ新聞での専門家の指摘等に示唆に富む内容が多い。これらを積極的に活用すること。また、「うたの学校」「研究生制度」など独自の教育活動を展開して、次代に引き継ぐことも重要である。専門家による合唱指導、指揮なども多く見られる中、さらに協力・共同を進めるとともに、うたごえ運動における創造の特徴、良さなども明らかにし、幅広く学習を深めていく必要がある。

③全国講習会のとりくみ

西日本合唱講習会は5月4、5日、広島市に約140人が集い行われた。みやぎ祭典全国合同曲「希い」の作詞者木村泉さんを招いての詩づくりの思い、また地元広島で毎年上演している憲法ミュージカルのダイジェスト演奏などを交えて、声楽、全国合同曲、女声合同曲等の合唱を深めた。関西ブロックの準備活動と共に、開催地広島の創造的な蓄積が会場、運営など成功の一因を確実に担った。

東日本合唱講習会は、5月24、25日、東京で160人余が参加し行われた。みやぎ祭典合唱曲、男声・女声・小編成、うたごえ運動理論講座など多彩な内容で、あらためてうたごえの役割を実感する講習会となった。関東ブロックで講習内容（選曲、講師の要望など）を出し合い、各県の参加目標も確認した取り組みが参加人数、内容ともに充実した結果に結びついた。

指揮・合唱指導講習会（教育講習会）は6月20、22日、長野県松本市で、第29回が約90人の参加で行われた。例年と同様に指揮法、合唱講座が行われたが、現役指揮者・音楽リーダー、新たなリーダーはもとより、歌い手としても音楽づくりの様々な角度からの発見、成長が実感された。全国で実りある豊かな音楽運動を進めていくために、さらに参加の幅を広げ、自らが求めて行くことが重要と確認された。

日本のうたごえ合唱団2014が170人で結成され、新春合宿練習を皮切りに東京、大阪での練習会、蔵王での合同練習会などを行い、みやぎ祭典での出演に備えた。また、新作「希い」を生み出し、祭典全国合同曲として音楽会での創造的役割を担うことができた。日本のうたごえ合唱団は、全国協議会の提唱のもと個人の自主的な参加による全国合唱団だが、実践的な演奏教育の場としても位置づけて参加している団員、合唱団もある。団員は日本のうたごえ協議会に属することをあらためて確認し、名実共に「日本のうたごえ合唱団」として発展させていくことが求められている。

①運動65周年・関鑑子没40周年出版「グレート・ラブ 関鑑子の生

涯」、DVD・CD・資料集「うたごえは生きる力」での学習と普及

「グレート・ラブ」はうたごえ内外で広がっている。「うたごえは生きる力」は青森、石川で学習会の資料として活用された。これらの普及を引き続き進める必要がある。

5 うたごえ運動の魅力・歌の広がりやうたごえ新聞読者へとつなぎ、うたごえ新聞をいっそう輝かせ、読者拡大につなげる活動

①紙面づくり

みやぎ祭典成功へ、年間を通して被災地からの発信、被災地に心寄せる各地の活動を紹介した。また、震災復興・いのちと暮らし、憲法を活かす豊かな活動へ、専門分野からの紹介。震災復興へは写真家・豊田直己さん、俳優・渡辺えりさん、歌手のクミコさんら。憲法をいかす活動では、特定秘密保護法、集団的自衛権が浮上する中、「未来への責任者として『知る義務』」法学者・樋口陽一さん（みやぎ祭典実行委員長）、「次代に手渡す芝居と憲法」（俳優・仲代達矢さん）、「憲法の持つ美しい生命力を観て！」（弁護士・飯田美弥子さん）、「沖繩から日本の『今』を見る」（琉球新報・島洋子さん）、「芸術は風化しないジャーナリズム」（映画作家・大林宣彦さん）など。

音楽創造では、合唱指揮者・本山秀毅さん「群青」、作者の武義和さん、木村泉さんによる「希望のうた」をお話と寄稿で紹介し、曲づくりを深めた。

また、音楽センターとうたごえ新聞社（後援）で作曲家としても活躍したカザルスに光をあてた「トークと音楽でつづるパウ・カザルスの世界」を開催。ヴァイオリニスト松野迅さんの演奏・楽曲解説とうたごえ新聞連載執筆ジャーナリスト伊藤千尋さんのお話で音楽家カザルスを豊かに伝え、初の試みとして特筆される。

通信活動で注目されるのは、県下全域からの精力的な送稿の青森、北九州・おおかわうたう会の小林千里さんの「大川讃歌」の歌と広がり、大

阪・関西合唱団山本則幸さんの「釜ヶ崎芸術大学合唱部」、大阪「コーラス3びきのくま」伊東多嘉子さんの「私の創作体験『へいわってすてきだね』」の自主投稿。活動とその感動を伝えた通信は紙面充実の大きな力となった。また、連続で特集した「青年ブーム」は運動の若い力が活発に発信された。

②読み・作り・広げるうた新フォーラムの開催

全国での開催を呼びかけている「うた新フォーラム」は、大阪、愛知などで開催。運動の財産を力にし、読者を広げるためにさらに開催を広げていく必要がある。

③担当者会議・ネットワークなど日常的な交流活動

奈良の月例化されている支局会議に倣って、大阪では協議会の常任委員会の前にうたごえ新聞読者を広げる取り組みについての話し合いを定例化した。また、東京、兵庫など、うたごえ新聞独自の会議をもち運動を進める力にした。

③最高時読者をめざす活動

読者拡大では、今年度、〇〇〇人の新読者を迎えた。拡大運動を活発にするために各都道府県での会議と合わせて、大県会議、中県会議を開催した。大県会議であらためて読者拡大のセオリーを確認し合い、中県会議でもそのことを深めた結果、前進が見られた。運動の力量に見合った読者を迎えるために、今年度の教訓をさらに活かしていく必要がある。

⑤季刊「日本のうたごえ」の会員全員購読へのとりくみ

季刊「日本のうたごえ」はNo.163〜166を発行。各号のメイン特集はNo.163、長年にわたって運動に参加していただいている作曲家・池辺晋一郎氏に「うたごえとの来し方、これからの運動への期待」。No.164 法学者・樋口陽一氏（みやぎ祭典実行委員長）「知る権利と義務と―

未来への責任」。No.165 詩人・和合亮一氏「フクシマに生きる詩人として表現してきたこと」、No.166 「2014 日本のおたごえ祭典 in みやぎ復興を希う音楽会へ」開催地からの寄稿。

この他、作曲家木下そんきさん主宰シンポジウム「うたごえの叢」から紹介、作曲家松永勇次さんの寄稿『斎太郎節』考」など貴重な運動の財産であり、「今」をまとめて紹介できる本誌を読み、その読者を広げていくことは急務である。

6 サークル・合唱団をつくり、大きくし、うたごえ協議会づくり。地域ブロックの連帯活動を活発に

①サークル・合唱団を新たにづくり、合唱団員をふやす活動

創立40周年を迎えた愛媛合唱団で、付属合唱団 Green love cantabile が誕生。長野では全国青年のおたごえ交流会に向けて女性アカペラグループ peace rock が結成された。青年サークルの発足は全国を励ました。京大職組の闘いの中でうたが生まれ、京大 PPM2・5 が誕生し、京都の65周年スクラムコンサートにも参加。

一方、職場サークルが解散するなどの状況もある。

また、各地で、研究生制度、演奏会に向けた特別団員、市民合唱団など粘り強い働きかけ、音楽の魅力などで工夫して新しい団員を増やしている。県祭典を取り組む中で団員を増やした東播センター合唱団、65周年音楽会の合同ステージ参加から団員を増やしている京都ひまわり合唱団などもある。

②合唱発表会参加団体、協議会加盟団体、うたごえ新聞・季刊「日本のおたごえ」読者を増やすことを、サークル・合唱団で討議し、目標を持ち、計画的に増やす活動

日本のおたごえ祭典開催を見通して加盟を増やした愛知、前年の祭典の成果を加盟に結んだ大阪、また東京、奈良など協議会活動が活発な県

で目的意識的な取り組みで協議会加盟団体が広がった。

大阪では協議会の常任委員会の前にうたごえ新聞読者を広げる取り組みについての話し合いを定例化し、地域ごとの目標を持ち、読者拡大を進めた。合唱発表会の参加団体のうたごえ新聞読者数を把握して、事前に手を打ち、当日を迎えて広げる方式が、会議を通して広まり、合唱発表会後にも生かされた。

③加盟団体500、協議会のない県での確立をめざす活動

今年度日本のおたごえ祭典開催地の宮城で、どらごえサークルが加盟したのをはじめ、次年度開催地の愛知、前年祭典開催地の大阪、など祭典開催地での加盟が進んだ。

沖縄では、うたごえ協議会の再建が実現した。神戸市役所センター合唱団の沖縄公演など、つながりを深める中で元合唱連盟理事長の強い思いと合同演奏などを通しての取り組みが実を結んだ。

関東・東京ブロックで、合唱講習会を初めてブロックで取り組み、ブロック活動が進んだ。関西ブロック会議では、議題の一番にうたごえ新聞読者を広げる取り組みを置き、その時々の運動の課題を取り上げて交流している。東北ブロックは日本のおたごえ祭典開催にブロックとして企画参加、組織、要員派遣など開催地宮城を支えた。

7 多くの人に喜ばれるうたごえ出版物をつくり、ひろげる活動

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものにし、魅力ある企画製作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする

被爆70年・NPT再検討会議に向けての運動づくりの力となるよう、原水爆禁止日本協議会、日本被爆者団体協議会、被爆2世3世の会などの協力も得て、反核・平和歌集「僕をつくる道」を制作・発行（CD同時発売）し、好評を得ている。大阪では、この歌集を使って原水協

と共同の学習&うたう会を行った。

祭典歌集は、「広い河の岸边」のヒットと話題も相まって、例年より多く普及された。

「メーデー・平和歌集」は、「民衆の歌」「自由よ！」など話題の曲、闘いの力となるような曲を掲載した。選曲はおおむね好評であったが、闘う現場にどのように普及していくかが課題である。

きたがわてつのニューアルバム「自由よ！」は今の情勢のなか、ともに歌い交わせる歌として様々な現場で歌われた。松野迅（ヴァイオリニスト）ニューアルバム「カザルスへのオマージュ」では、ジャーナリスト伊藤千尋さんとのトーク&コンサートをうたごえ新聞社後援で開催した。

CD「無言館と共に生きる街で」は、長野県・上田市上演で約200人の市民合唱団が結成され、演奏を収録した。当日は館主・窪島誠一郎氏とのジョイントも実現した。また、神奈川で開催した日本母親大会では、特別講座として窪島氏のお話と神奈川のうたごえを中心とした合唱団で組曲「無言館」から演奏した。

「うたごえ喫茶ソングブック828」、今年度は楽譜集を再版し、828シリーズとして94曲掲載の「828プラス」（歌詞集&楽譜集）を発売。また、プロジェクトに対応したデータ版も発売と、うたごえ喫茶・うたう会の充実に役立つシリーズとして企画・展開した。

②インターネットを活用したとりくみで新たな層に広げる

この分野はインターネットを活用した楽譜のダウンロード販売など、研究が必要である。

8 郷土のうたと踊り

みやぎ祭典・全国郷土合同「すずめ踊り」を地元の祭連のみなさんや東・西郷土講習会参加者を中心に演奏。舞台と会場が一体となる大きな

盛り上がりをつくり、郷土芸能の魅力が発揮され、その後各地で広がった。

郷土講習会は5月に西日本、6月に東日本を開催した。

西日本は、六郷すずめつこの講師陣による「すずめ踊り」のお囃子コース・踊りコースの講習が行われ、みやぎ祭典へつないだ。他にしの笛コースの3コースと「南京玉すだれ」「鶴飼かがり火太鼓」の講習が行なわれた。

東日本も「すずめ踊り」を講習。また、「七夕まつりばやし」「玉すだれ」の講習を行った。これらの演目が「江戸やつこまつり」で合同演奏されるなど実行委員会形式の取り組みが力になっている。「江戸やつこまつり」は参加団体を広げている。

西播センター合唱団の民謡集団「鯨」は創設40周年コンサートで、同団が掘り起こした「鯛網引き唄」を演奏し継承している。神戸市役所センター合唱団の太鼓衆団輪田鼓は250人の教室生らと共に5年に一度の「わだつみ祭」を2000人の会場で青年座の津嘉山正種さんをゲスト（語り）に迎えて開催するなど活動を広げた。和太鼓の創作曲が各地で生まれ、うたごえ祭典やコンサートで演奏されるようになった。

9 世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げる

中国との関係が厳しい中、継続的に南京公演を行った紫金草合唱団。

愛知のうたごえのベトナム歌舞団を迎えて在日のベトナムの人たちと合同演奏、埼玉合唱団は韓国・ソウルで平和の木合唱団と合同公演を行った。調布泊江合唱団郷土部跳鼓舞は米国の和太鼓チームとの演奏交流10年目を迎えた。5・18光州芸術祭（韓国）への参加など、国内外で多彩な交流が行われた。

新たな国際交流の進め方を探る第一歩として、4月に伊藤千尋さんを迎えて世界の音楽情勢についての学習会を行った。みやぎ祭典では国際交流のステージは持たなかったが、そのことも含めて、今後、検討を進

めていく必要がある。

10 65周年の運動をすすめる中で、70周年にむかう運動計画を立案し、その柱として「日本のうたごえ祭典」の開催計画を持つ

70周年へむかう運動計画の柱としての日本のうたごえ祭典開催計画については全国協議会・祭典プロジェクトで検討、各地へ要請し、2016年四国・愛媛、2017年北陸・石川での開催が決定。70周年東京での開催の検討が始まり、展望を持った準備が進んでいる。また、70周年に向かう創造活動を進めるために70周年プロジェクトを立ち上げた。

生命(いのち)のきずな、人間の尊厳を 高らかに歌おう!

2015年活動方針

「広島、長崎、東京大空襲、そして震災、人間は絶望のどん底にいつまでも張りついている。(中略)被災者が被災者を支援することによって立ち直り、人類の不幸は再生と復興へとつづく。私自身も1945年8月14日未明から空襲を受け、ほぼ全市域が焼かれた。それを救ってくれたのは、一望の焦土に一夜ごとに増えていく電燈の光点と自由な歌であった」(森村誠一氏)。精神の復興に「自由な歌」がどれほど大きな力を持つかを昨年のみやぎ祭典・復興を希う音楽会で被災地のうたごえが見事に証明した。

今秋11月21〜23日に開かれる2015日本のうたごえ祭典 in 愛知。被爆・戦後70年の節目にふさわしく国民的な要求や願い、課題に音楽で豊かにこたえる祭典をつくらう。豊かな創造力あふれる企画に加えてそれを実践する仲間と、それを伝えるうたごえ新聞読者をいかに増やしていくかが、困難な時に人々を励ます力となる。同時に「時代と社会に真正面から向きあい音楽で表現していく」運動の情勢分析、演奏

創造、普及、創作等の力を向上させよう。

本年から運動70周年の2018年を展望する「うたごえと心のふれあいと生きがいのある運動」づくりを全国津々浦々で展開し、新たな前進となる一年を全国の力で構築しよう。そのために、2015年度を以下の活動方針ですすめる。

方針(1) 人々の要求や願いをうたに、「みんなうたう会」を旺盛に展開し、平和憲法をまもり生かす「共に生きる町づくり、地域づくり・職場づくり」のうたごえを活発に広げる。

① 「憲法の心」を輝かせるうたごえの演奏・普及を積極的にすすめる。
・サークル・合唱団・協議会で、音楽家・音楽愛好家とともに「9条の会」をつくる。

・地域、職場、分野別の「9条の会」とも連帯してうたごえを広げる。
② 基地のない平和な沖縄・日本をめざす思いを歌にして広げる。

③ 東日本大震災の被災地への支援を継続し、復興・再生、原発ゼロの社会をめざす思いを歌にして広げる。

④ 「いつでも、どこでも、うたごえを」を合言葉に、多種多様な形態で大勢の人とともに歌う喜びの機会と場をひろげる。

・日常の演奏・創造活動を発展させ、平和で健康な音楽づくりと普及のために日々の合唱練習をさらに充実させよう。

・全市区町村で、多彩なうたう会活動を展開し、創りうたい広げる普及活動を旺盛に展開する。

⑤ たたかう労働者と連帯するうたごえを意識的にすすめる。
⑥ 2018年うたごえ運動70年にむかう創造をすすめる「70年プロジェクト」を立ち上げる。

⑦ NPT再検討会議に向けた派遣運動を「Before(運動づくり)」
「Action(現地行動)」
「After(帰国後)」の三段構えで成功させよう。

・50〜60人のうたごえ代表団の募集、5万筆の核兵器廃絶署名、

4/6号うたごえ新聞に掲載する5千人の「人間の鎖」宣言広告運動、全国各地で平和コンサートや地域原水協とも協力共同してNPTうたごえ等を開催し、3・1ビキニデー、平和行進、世界大会につなげていく。

・学習資料としても活用できる「僕をつくる道」(反核・平和歌集&CD)の普及に取り組み、派遣運動の力にする。

⑧多くの人が「こぞって歌える」愛唱歌を創り出す創作運動を活発にする。

・「みんなでつくり歌う運動」を広げ、新しい創り手を生み出し創作活動と作品交流を活発にする。

・全国創作講習会を多くの参加者で成功させる。オリジナルコンサートを充実させるとともに、「オリジナルソングブック」の活用を日常的にすすめる。

方針(2)合唱発表会を地方、産別、全国レベルでも豊かに発展させ、学びあい、創造の前進をめざす場にする。

①合唱発表会を協議会活動の年間活動の柱に据え、演奏・講評を通じて交流し学び合うという発表会の原点をいっそう輝かせる。

②合唱発表会参加団体を1600団体に、未開催県の今年度開催計画を持つ。

方針(3)地方祭典の全都道府県開催をめざし、日本のうたごえ祭典の運動70年以降の長期開催計画をもつ。

①うたごえを起こし、新たな発展をめざすとともに、「うたごえ祭典」の役割を輝かせ、地域や都道府県単位、産別・階層別の祭典を活発にし、祭典運動の前進をめざす。

②被爆・戦後70年の節目の年に開催される2015日本のうたごえ祭典 in 愛知を地元・全国の連帯で成功させる。

③2016年日本のうたごえ祭典 in えひめ(仮称)開催の準備をす

すめる。

④2017年日本のうたごえ祭典を北陸ブロックの連帯のもと石川県で開催する。

⑤2018年運動70周年記念祭典及びそれ以降の開催計画を持つ。

方針(4)うたごえ運動の魅力・歌の広がりをもつ日常のとりくみの中で、「うたごえ発ジャーナル」としてのうたごえ新聞をいっそう輝かせ、読者の輪を常に意識的に広げる。創刊60周年記念「うたごえ新聞まつり」を全国で展開する。

①創刊60周年記念「うたごえ新聞まつり」の取り組みの中で年間1千部の読者の広がりを実現し、過去最高のうたごえ新聞読者をめざす。

②規模の大小を問わず「うたごえ新まつり」や「うたごえ新フォーラム」などの全国展開を計画する。

③通信活動を活発にし「うたごえ発ジャーナル」を一層輝かせる。

④季刊「日本のうたごえ」は、運動づくりのテキストとしての位置づけを高め、積極的に活用し、会員の全員購読をめざす。

方針(5)豊かな演奏・創造・普及活動と展望が指し示せる運動の歴史に学び、運動の理念を受けつぎ発展させる。学習・教育活動を推進しながら、次代を担うリーダーづくりを計画的にすすめる。

①運動の歴史を引き継ぎ、日常の練習や活動の中で教育活動を重視する。批評活動や運動の理論活動をすすめる前進への力にしていく。

②うたごえ新聞、季刊「日本のうたごえ」を学習・教育活動に積極的に活用する。

③各種全国講習会へのサークル・合唱団からの参加を強める。各協議会やブロック等で指揮者・指導者の交流を活発にし、そのネットワークづくりをすすめる。

④運動65周年・関鑑子没40年で出版された「グレート・ラヴ 関

鑑子の生涯」、記念出版「うたごえは生きる力」の普及と学習を引き続き意識的にすすめる。

方針へ6 青年サークルづくりや会員を広げる行動を積極的にすすめ、青年・学生の要求と結び合った歌を創り広げる。

①サークル・合唱団・協議会で、青年・学生と繋がる活動を意識的に持つ。

②仲間づくり、サークルづくりへ、団体・分野を越えたネットワークづくりを強める。

③全国青年のうたごえ交流会 in 広島（仮称）を成長の場として位置づけ、青年を積極的に送り出し、2015日本のうたごえ祭典 in 愛知につなげる。

方針へ7 サークル・合唱団をつくり協議会への加盟をよびかけ、うたごえ協議会の建設をすすめ、強化をはかる。地域ブロックの連帯活動を活発にする。

①サークル・合唱団を新しくつくり、サークル・合唱団員を増やす。

②合唱発表会参加団体や協議会加盟団体を目標を持って計画的に増やしていく。

③加盟団体500団体をめざす。うたごえ協議会のない県の確立を計画を持ってすすめ、全ての県にうたごえ協議会をつくることを目指していく。

方針へ8 うたごえ事業出版物の制作と普及、事業活動を旺盛に展開しよう。

①普及、教育・学習の財産としてのうたごえ出版物をみんなのものにし、魅力ある企画制作と旺盛な普及でうたごえの前進の力とする。

・2015メーデー歌集、CD、DVDなどを活用し、多くの人とうたごえを届ける。

・みんなうたう会、うたごえ喫茶の活性化や拡大のために、出版物の活用や普及に努める。

・サークルや合唱団の演奏活動と結んだCD、楽譜などを出版し普及する。

②事業普及活動の計画を持ち、活発に進める。

③楽譜のネット配信など、インターネットを活用した取り組みで、新たな層へのうたごえ普及の力にする。

方針へ9 運動の一翼を担う「郷土のうたと踊り」を旺盛に展開し、全国の活動の経験交流などを活発にし、全国講習会を充実させる。

①東西郷土講習会を成功させるとともに、活動交流、情報発信、教育資料、指導者の派遣等といった全国ネットワークづくりをすすめる。

②全国の郷土活動、経験交流などの情報をうたごえ新聞に郷土紙面として反映させる。

③専門家・保存会との協力関係をすすめる。

方針へ10 専門家及び他団体との情報交流、協力共同により音楽文化の豊かな発展をめざす。

①各種合唱講習会、指揮者・指導者講習会はじめ、運動内外の専門家との協力共同をはかり、うたごえの創造的力をたかめる。

方針へ11 世界の音楽家、音楽団体との国際交流の輪をさらに広げ、継続的な交流の計画を持つ。

おわりに

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」(『ユネスコ憲章前文』より)

「本当の歌というのは、苦しみや悲しみをやわらかく底に沈め、人の心を打つ歌、喜びを心の底から歌える歌。日本国憲法の心を刻もう」と樋口陽一みやぎ祭典実行委員長。

人々の悲しみや苦しみを歌の翼に乗せて歌う者と聴く者に「感動と勇氣」を分かち合う。うたごえはまさしく人の心の中に平和のとりでを築く「力」なのである。

震災に負けない、職場での不当な攻撃に屈しない、明るく優しく力強い経験が満ち溢れている被災地及び全国のうたごえが一層輝く一年に。被爆・戦後70年の今年、国民的課題は山積み。笑顔を絶やさず、夢とロマンとあこがれを胸に、荒涼たる世界に垣間見える一閃の光への道を音楽の力で一步一步を進めていこうではありませんか。そのことが困難を喜びに変える、と信じて。

◆2015年主な日程予定

◎日本のうたごえ祭典 in 愛知

11月21日(土) ～ 11月23日(月) 愛知

◎地域・職場うたごえ祭典・交流会

北海道のうたごえ祭典 in さっぽろ

9月21日(月) ～ 22日(火) 札幌

第49回山形のうたごえ祭典

9月26日(土)

信濃のうたごえ祭典

9月13日(日) 松本

九州のうたごえ祭典 in 佐賀

10月10日(土) ～ 11日(日) 佐賀
北陸のうたごえ交流会

7月12日(日) 富山

広島のうたごえ祭典 9月20日(日)

2015教育のうたごえ祭典 in おきなわ

8月22日(土) ～ 23日(日)

医療のうたごえ祭典

9月5日(土) 千葉

自治体のうたごえ祭典&みどりのコンサート

9月20日(日) ～ 21日(月) 兵庫

私鉄のうたごえ祭典

9月26日(土) 東京

電通のうたごえ祭典

9月26日(土) 東京

郵便のうたごえ祭典

9月12日(土) 京都

国鉄のうたごえ第59回祭典

10月11日(日) ～ 12日(月) 福井

青年のうたごえ交流会 in 広島

6月27日(土) ～ 28日(日) 広島

関東・東京のうたごえ交流会

7月11日(土) ～ 12日(日) 茨城

◎全国講習会

西日本合唱講習会

5月4日(月) ～ 5日(火) 愛知

西日本郷土講習会

5月5日(火) ～ 6日(水) 兵庫

東日本合唱講習会

5月9日(土) ～ 10日(日) 埼玉
東日本郷土講習会

6月6日(土) ～ 7日(日) 東京
全国指揮・合唱指導講習会

6月19日(金) ～ 21日(日) 長野

東日本創作講習会 in ふくしま
5月15日(金) ～ 17日(日) 福島

西日本創作講習会 in えひめ
7月10日(金) ～ 12日(日) 愛媛

北海道創作合宿
1月24日(土) ～ 25日(日) 岩見沢

電通全国創作講習会
3月20日(金) ～ 21日(土) 東京

北海道指揮・合唱講習会
4月24日(金) ～ 25日(土) 札幌

◎全国大会・集会

3・1ビキニデー集会

2月28日(土) ～ 3月1日(日) 静岡

第61回日本母親大会

8月1日(土) ～ 2日(日) 兵庫

原水爆禁止世界大会・広島

8月2日(日) ～ 6日(木)

同・長崎

8月7日(金) ～ 9日(日)

日本平和大会 in 富士山

10月31日(土) ～ 11月1日(日) 静岡